

【トピックス】

2024 年の果樹カメムシ類の大量発生について

今年も越冬成虫が平年より多いおそれがあるため、引き続き注意が必要です。

2024 年は、全国各地で果樹カメムシ類の発生が多く、果樹類（なし、りんご等）、果菜類（なす、きゅうり等）等の様々な農作物で被害が問題となりました。栃木県内でも、チャバネアオカメムシは過去に類を見ないほどの大量発生となり（図 1）、注意報を発表しました。本種はスギ・ヒノキ等の球果を餌として増殖します（図 2）。2024 年の大量発生の要因は、①2023 年にスギ・ヒノキの球果等の餌が豊作で大量の新成虫（越冬する成虫）が発生したことと、②暖冬により多くの成虫が越冬できたためと考えられます。



図 2 スギの球果（矢印）を吸汁するチャバネアオカメムシ成虫（赤丸）

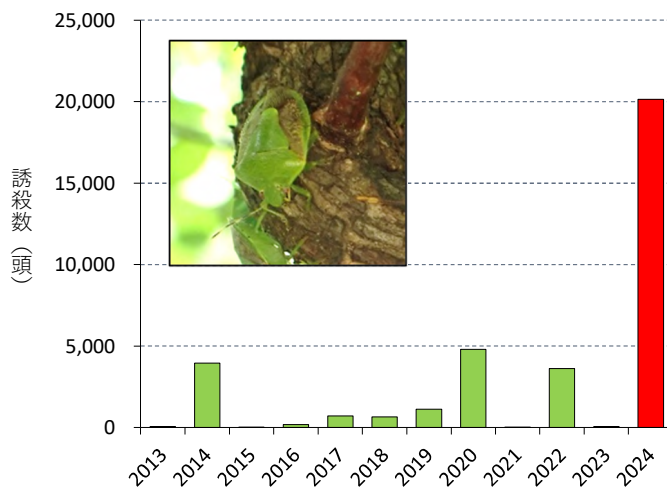


図 1 フェロモントラップによるチャバネアオカメムシ誘殺数の年次推移（宇都宮市内）

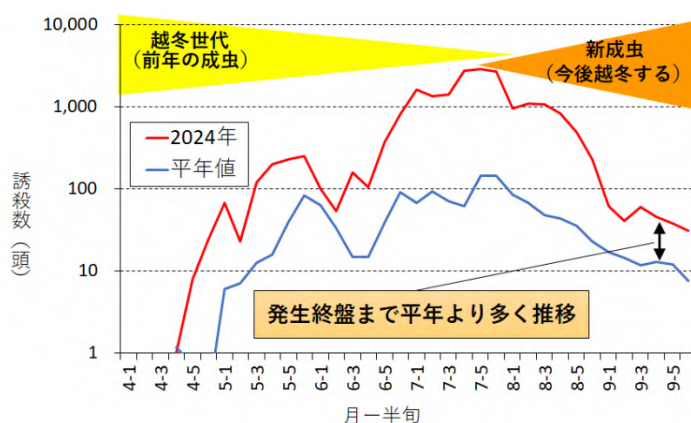


図 3 フェロモントラップによるチャバネアオカメムシ誘殺数の推移（2024 年・宇都宮市内）

2024 年のチャバネアオカメムシのフェロモントラップ調査では、大量発生の直接の原因である越冬世代成虫の誘殺数だけでなく、2024 年に産まれた新成虫に世代が切り替わった 8 月以降になっても誘殺数が多かった点が特徴的でした（図 3）。その理由として、①山林の餌が多く（2024 年のスギ・ヒノキ花粉量は平年より多かった）、例年より**新成虫の発生量が多かった**こと、②大量発生した新成虫により山林の餌が消費されてしまい、多くの新成虫が餌を求めて山林を離れ、トラップに多く誘殺されたこと等が考えられます。

2025 年のチャバネアオカメムシの発生量は、2024 年の新成虫（越冬する成虫）の発生量と、冬期の気温等の気象条件が関係します。**新成虫の発生量は平年と比べて多い可能性**があるものの、冬期は低温傾向で推移しています。昨年ほどの異常発生にはならないと考えられますが、今年もカメムシ類の発生には注意が必要です。当センターでは、今後に向けてカメムシ類の越冬量調査を行うとともに、成虫活動開始前の 4 月上旬からフェロモントラップによる発生量調査を実施し、病虫害発生予察情報を発信していきます。